

交通まちづくりと中心市街地活性化のための計画と政策

Transportation Planning and Policy for Sustainable Urban Development

キーワード：まちづくり交通、持続可能都市 / keywords: behavioral analysis, transportation and urban planning

溝上 章志 教授 工博 / Shoshi MIZOKAMI Prof. Dr. Eng.

環境共生工学専攻 社会環境マネジメント講座 / Department of Environmental Management and Planning

E-mail: smizo@kumamoto-u.ac.jp URL: <http://www.civil.kumamoto-u.ac.jp/keikaku/>



●地域公共交通の再生のための計画・評価・管理手法の開発

熊本都市圏の路線バスの利用者数はこの20年間で半減し、サービス維持のための補助金は市の財政を圧迫するまで増加するなど、公共交通サービスの再生と活性化は喫緊の課題である。利便性の向上、潜在需要の顕在化、補助金の軽減を目標とした熊本都市圏のバス路線網再編の技術を開発すると共に、インセンティブ報酬制を取り入れたメカニズムデザインと評価法を提案した。

●エネルギー消費の視点から見た持続可能な都市構造と交通サービス

コンパクトシティは持続可能な都市開発の概念であるが、コンパクトの具体的な指標と定義は明確でない。個人の効用水準を維持するという条件下での総エネルギー消費量を最小にする財の消費パターンと実績との差によって都市のコンパクト性を評価する手法を提案し、どのような都市構造や交通サービスがエネルギー消費量削減に貢献するかを明らかにした。

●都市構造と交通サービスのあり方を評価するモビリティ水準評価指標の開発

移動モビリティの質を評価するQOM概念を提案し、その水準値を求める評価手法を提案した。各地域で検討されている特徴の異なる幾つかの都市・交通政策シナリオに適用してみると、公共交通サービスによって繋がった多核連携型都市構造は効率性だけでなく公平性の視点からも好ましいことが検証される。

●来街者の回遊行動分析と中心市街地活性化施策

中心市街地の空間構成や沿道土地利用、歩行者通行量に関する調査データを管理・分析するフレームワークを提供した。さらに、歩行者回遊行動調査データから目的地施設とそこでの滞在時間の選択から構成される来街者回遊行動の記述手法を開発した。これによって、新たな施設配置や街路整備が来街者の回遊・消費行動に及ぼす効果を評価することができ、中心市街地の活性化やエリアマネジメントに寄与することができる。

